



# Bーぐる沿線協議会ニュース

第2号

平成23年6月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 文京区区民課コミュニティバス担当 03-5803-1387

平成23年5月24日、障害者会館でBーぐる沿線協議会の第2回会合が開催されました。東日本大震災の影響により、当初3月の予定が延期、また震災直後の3月17日から6日間にわたりBーぐるの運行が燃料不足のため半数に減便されるなど、東日本大震災の影響の大きさを改めて知ることとなりました。

## 新たな検討体制と活動体制でスタート

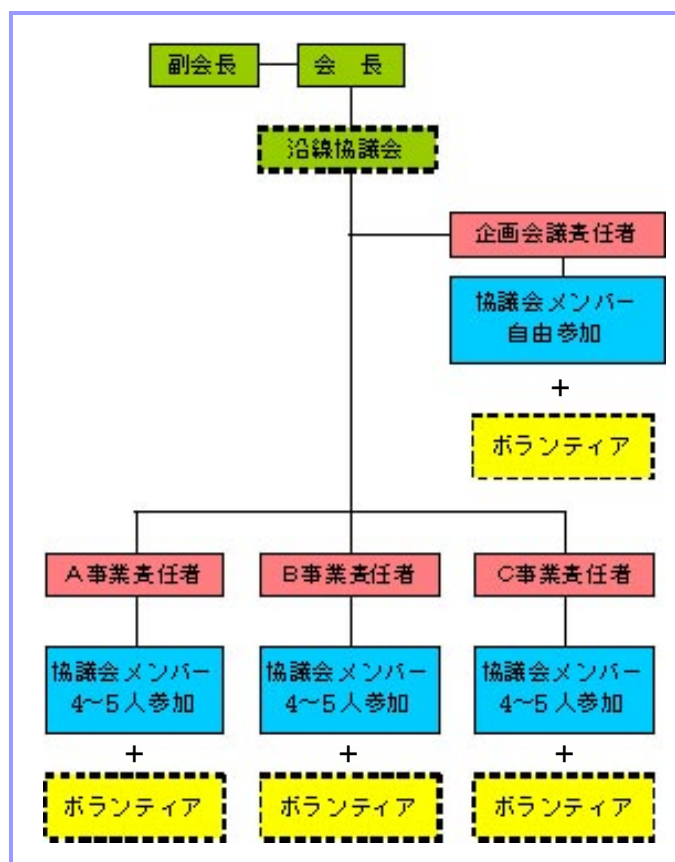
最初に事務局から、第1回会議のあと沿線協議会の公募委員が中心となって有志の会（代表：佐藤成臣委員）を立ち上げ、月に1回Bーぐるを軸とした沿線地域の活性化策について話し合いを進めてきたことが報告されました。これを受けて佐藤委員から、沿線協議会の組織体制に関する提案がありました。



### 検討体制・活動体制・検討事項(案)に関する提案

- 沿線協議会の委員が主体的に役割分担し「企画委員会」を設置する必要があると考え、これまで行ってきた月1回の「話し合いの場」を企画委員会主催の「企画会議」として定例化する。  
 <企画会議の性格>
  - メンバーは協議会委員だけでなく、Bーぐるに興味や関心のある人が自由に参加できるようにする
  - 企画会議で検討する事項は沿線協議会で決定する
  - 企画会議で検討した結果は、沿線協議会の承認を得てから行動に移す
- 沿線協議会で承認された事業活動ごとに、協議会委員のメンバーが責任者となり5~6人程度のチームを編成して事業化を推進する。(図1)
- 企画会議での検討事項は、「バスの利便性を上げる」、「新たなコミュニティの形成」、「Bーぐるに親しみを持ってもらう」、「その他のアイデア」に関する具体的な活動の可能性を検討する。

図1 沿線協議会・組織体制イメージ図



以上の提案に対し出席委員からは、会議運営やプロジェクト実施の経費をどうするのか、第二路線でも同様のことを考えていくのかといった質問が出されました。

事務局（区）から、会議室の提供や事業化が可能と判断されたものについては予算措置など、できる限りの支援をしていきたいとの意向が示されたほか、第二路線についても運行開始後の状況を見た上で、改めて検討するとの説明がありました。続いて「Bーぐるを愛する熱心で前向きな人が中心となって活動を起こし、Bーぐる沿線地域が活性化していくこ

とはよいこと」といった賛同意見が寄せられ、全会一致で承認されました。

この結果、企画会議の会長に佐藤委員、副会長に饗場委員が就任し、沿線協議会と企画会議という二段構成での新たなスタートが切られました。今後は、企画会議で事業内容のたたき台を作成し、協議会で審議することになります。

佐藤委員は「これから何を進めていくかを具体的に決めていくが、若い人たちの考えだけでは偏りがあるかもしれない。ある程度動き出した段階で、協議会のメンバーの方にもぜひ参加してほしい」と抱負を述べました。

### 各委員から出された検討事項(案)に関する意見や要望

- (若者向けの)ツイッターだけでなく、実際にBーぐるに乗車している高齢者の意見を聴取してほしい。
- 都バスや駐車車両の関係もあるが、乗り降りの段差が気になるので、停留所ではバスを歩道の端まで寄せてほしい。
- 白山下の乗り継ぎはダイヤでは5分の余裕があるが、実際はバスが遅れて乗り継げないこともある。待ってもらうようにはできないのか。
- 高齢者クラブの広報にBーぐるの関連記事を掲載する。
- キャラクターのびい(着ぐるみ)が地域のイベントに参加する。

## 「新しい公共支援事業」の応募に向け、検討分科会を設置

「新しい公共支援事業」はこれまで官が独占していた領域を「公(おおやけ)」に開く、あるいは官だけでは実施できなかった領域を官民協働で担うなどの考え方にに基づき、公的な財やサービスの提供に関わるNPO等の自立的な活動を支援する事業です(平成22年度予算額87億5千万円)。具体的な募集スケジュールはまだ東京都から発表されていませんが、採択された場合、早ければ今秋からの活動開始が可能になる見込みです。

事務局では、沿線協議会の構成や活動内容が「新しい公共」の考え方に合致した部分も多く、この事業に応募すれば採択される可能性が高いことから、今後応募に向けて具体的な活動計画の作成のほか、金銭管理の面から会の規約の追加など、具体的な検討を行うよう提案がありました。

「今後の協議会の活動にも役立ちそうな印象」と元田会長も応募には意欲的であり、作業部会的な「分科会」を設置し、応募に向けた詳細を詰めていくことが全会一致で承認されました。

検討分科会のメンバーは以下の通りです。 浅利委員、上本委員、小森谷委員、谷川委員、玉澤委員、佐藤委員、田中委員、横溝委員(以上8名、会長、副会長)



## 「義援金付き1日乗車券」導入の方向でバス事業者と調整

最後に饗場委員から、「義援金付き1日乗車券」の提案がありました。これまでの話し合いの中で、東日本大震災の被災者に対する支援をBーぐるを活用してできないかというテーマにメンバーの関心が集まり、運行事業者である日立自動車からの対応は可能との回答を得ているとの説明がありました。

出席委員からは「コミュニティバスで初の試み」、「早く実行に移すべきだ」、「寄付先は区民の理解が得られる方法で」といった導入に前向きな意見が寄

せられ、早急に実施する方向で承認されました。今後は饗場委員を中心に企画会議のメンバーで、実施期間や義援金の寄付先等の詳細を詰めていくことになりました。

### 編集後記

震災の影響もあり開催まで間隔が開いてしまいましたが、その間も有志のメンバーがBーぐるや沿線地域を思い活動していたこと、またその提案が協議会で賛同を持って承認されたことが印象的でした。今後の展開を期待させるさい先よいスタートが切れました。(N)